

飛鳥資料館 冬期企画展 「飛鳥の考古学2019」

今回の展覧会では、2018年度に飛鳥藤原地域でおこなわれた発掘調査の成果を中心に、最新の調査研究の成果もあわせて紹介します。

飛鳥京跡苑池では、北側の池が全面的に調査され、飛鳥時代の庭園の具体的な姿が判明しつつあります。小山田古墳では、古墳西南部で墳丘盛土と西裾部が確認されたことで、古墳の形状や規模を復元する新たな手がかりが得られました。飛鳥寺の北方でおこなった調査は、狭い範囲でしたが、飛鳥寺北部域の整備過程をより詳しく知ることができます。また、古代の幹線道路である山田道の調査では、道路に関わると推測される溝がみつかっています。藤原宮の大極殿では、北面回廊周辺の調査により、北門の位置や回廊の構造とともに、造営過程の詳細もわかつてきました。四条遺跡では、多くの建物が新たに確認され、四条大路の北と南における土地利用の一端があきらかとなりました。

この冬は、これらの発掘調査があきらかにした飛鳥の歴史研究の最前線をぜひお楽しみください。

(飛鳥資料館 若杉 智宏)

会 期：2020年1月24日（金）～3月15日（日） 月曜休館（祝日の場合は翌平日）※2月2日（日）は無料入館日

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：☎ 0744-54-3561



平城宮跡資料館 新春ミニ展示 「平城京の子」

2020年(令和2)は子年。「ネズミ算」という言葉もあるように、旺盛な繁殖力をもつネズミは、子孫繁栄・商売繁盛の象徴です。また、子年は、十二支の最初の年。新しいサイクルの始まりであり、成長に向かって種子が膨らみ始まるという意味を持っています。まさに、未来に向けて令和の時代が本格的に動き出す年としてふさわしいといえるでしょう。

さて、申(2016年)、戌(2018年)、亥(2019年)とおこなってきた新春ミニ展示。子年の今回は、奈良市法蓮町の那富山墓にある隼人石に線刻された謎の獸頭人身像の拓本画像を展示します。これがなぜ、ネズミなのか？は、平城宮跡資料館でご確認ください。また、「鼠」と表記されている木簡の写真も展示します。乞うご期待。

それでは、新年が皆様にとって、よい年であることをお祈りしております。

(企画調整部 加藤 真二)

会 期：2020年1月4日（土）～1月26日（日） 月曜休館（祝日の場合は翌平日）

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問合せ：☎ 0742-30-6753（連携推進課）



■ 記録

文化財担当者研修(専門研修)

- 堆積・地質学基礎課程 9月17日～9月20日 32名
- 遺跡GIS課程 9月24日～9月27日 8名
- 出土木器調査課程 9月30日～10月4日 4名
- 保存科学II(有機質遺物)課程 10月15日～10月24日 11名
- 文化財三次元計測課程 11月18日～11月22日 12名
- 文化財写真課程 11月25日～12月5日 11名
- 報告書編集基礎課程 12月5日～12月12日 24名
- 報告書デジタル作成課程 12月12日～12月19日 13名

現地説明会

- 平城第615次調査(平城宮東方官衙地区)
令和元年9月29日（日） 892名
- 飛鳥藤原第200次調査(藤原宮大極殿院)
令和元年10月6日（日） 971名
- 東大寺東塔院跡発掘調査
令和元年11月10日（日） 850名

飛鳥資料館 秋期特別展

- 10月11日（金）～12月1日（日） 6,506名
「飛鳥－自然と人と－」

平城宮跡資料館 秋期特別展

- 10月12日（土）～11月24日（日） 13,257名
「地下の正倉院展－年号と木簡－」

第11回東京講演会

- 10月5日（土）10:00～16:00
於：有楽町朝日ホール 464名

第125回公開講演会

- 11月9日（土）13:00～16:00
於：平城宮跡資料館講堂 150名

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール koho_nabunken@nich.go.jp

発行年月 2019年12月